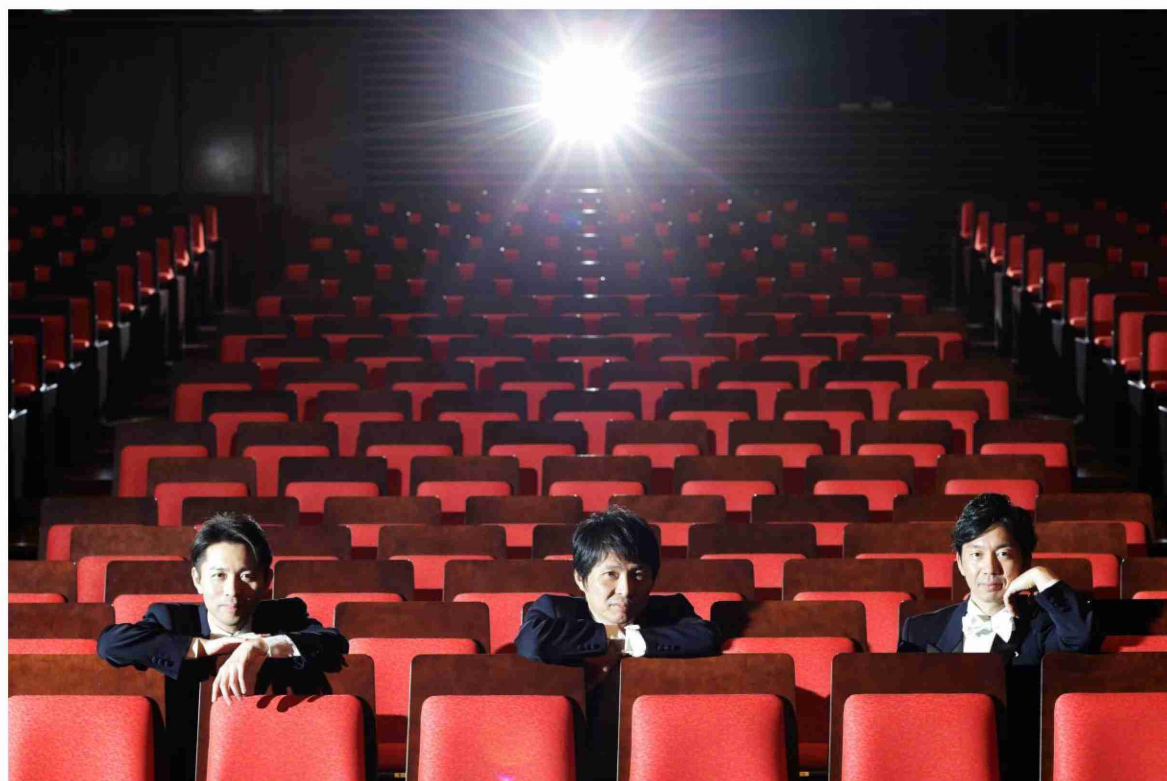


ホールと創る音楽



音楽監修 三宅進 仙台フィルハーモニー管弦楽団チエロソロ首席奏者
 プランナー 助川龍 仙台フィルハーモニー管弦楽団コントラバスソロ首席奏者
 プランナー 西沢澄博 仙台フィルハーモニー管弦楽団オーボエ首席奏者

Music from PaToNaは、「プログラムの質が高く、奏者と聴く人の双方を育てている」
 （作曲家・吉川和夫氏のコメント 2024年12月26日「河北抄」より）

Music from PaToNa、第13期のスローガンは「ホールと創る音楽」。12年の間、PaToNaホールで行なわれるこのシリーズでは、「奇跡なんじゃないか」と思うような音楽的瞬間が、何度もありました。奏者にとっても、その作品に挑むことは、大きな挑戦です。2025年2月5日時点で、のべ157曲の室内楽作品を、お届けしてきました。有名、無名関わらず、作品を取り上げ、真摯に向き合いながら、その作品の良いところをお客様と分かち合うための「魅せ方」を考えながらこのMusic from PaToNaは進んできたのです。

良いホールが出来ただけでは何も生まれません。良い音楽家を育み、良い聴衆を育み、中身を伴って初めて「ホール」は豊かに響きます。

インターネット上で世界中の音楽を聴くことができるようになったり、全音楽家がPCやスマホひとつで、世界に向けて発信できるようになったこの時代においても、聴衆ありき、生で聴いて、共に響きにふるえ、コンサートシリーズを「育てて」くださるお客様がいる。これは国内でも稀に見る奇跡的なことなのです。

第13期を迎える2026年度。このシリーズのベースとなる地元の音楽的資源である仙台フィルハーモニー管弦楽団も徐々に世代交代の時期を迎えています。優秀な若い奏者がこの土地を選び、音楽活動を始めています。また、仙台国際音楽コンクールも第9回目を迎え、多くの入賞者や、ゆかりの奏者を輩出しました。幸い、彼らもまた仙台に戻って来てくれて、音楽的な可能性を拓けてくれています。また宮城仙台を故郷にもち、それぞれの世界で活躍する奏者たちの存在も大きく、Music from PaToNaが、様々な室内楽プログラムに果敢に挑戦できることに繋がっています。

次年度の4回も魅力的な奏者と、プログラムを組み上げることができました。誰もが名曲と唸る作品はもちろん、時代の最先端を行く曲や、再びその作品の魅力に立ち返って聴いて頂きたい作品もとりあげました。

Music from PaToNaを長くご愛顧いただいているお客様はもちろんのこと、いつ、何回目から来ても室内楽の魅力の扉は「開かれている」こと、いつからでも、ハマることができるよう、それぞれの回に、想いをもって監督、プランナー、奏者、スタッフ一同取り組んでいます。

このホールの響き、このホール、このシリーズの雰囲気ごと、「音楽」となるのです。ぜひ、2026-2027年のシーズンも第50回の記念演奏会に向けて、皆さまのご支援を賜る事が出来れば幸いです。